

2. 事業の概要と成果

(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)	<p>アフガニスタン・カンダハール市における地域医療サービスが確立・向上し、同取組が他地域にも普及する</p> <p>①学校保健管理システム、②感染症対策、③母子保健の分野において、地域医療サービス向上の基盤が整備される。</p>																																				
(2) 事業内容	<p>1 : 学校保健管理システムの構築</p> <p>1-1) 2021年8月のタリバン復権によりモデル校（カンダハール市立ハジ・ニカ学校）でも新学期の開始が遅れたが、新しい教育局长の承認及び保護者への事前説明会（8回）を実施</p> <p>1-2) 11月より長期欠席中を除く938名（男子709名、女子229名）に対し健康実態調査を実施した。また、1月末からは家庭調査に参加する女性ヘルパーやコミュニティ・ヘルスワーカーへの研修を実施した後、ハジ・アズィズ地区にある生徒の家庭484軒で聞き取り調査を行った。</p> <p>1-3) 2月以降に双方の情報をデータベース化（詳細は別紙参照）すると共に、2022年6月には保護者への事後報告会（2回）も開催した。</p> <p>1-4) 学校保健管理システムのもう一つの柱となる学校保健協議会は、モデル校での生徒向け健康実態調査が終了した1月に立ち上げるとともに、協議会及び教員が参加した感染症（急性下痢）対策ワークショップを5月に実施した。</p>																																				
<p>説明会・ワークショップ概要</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月日</th> <th>テーマ</th> <th>参加者</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11月10日～17日</td> <td>事前説明会（4回）</td> <td>生徒の父親</td> <td>187名</td> </tr> <tr> <td>11月10日～18日</td> <td>事前説明会（4回）</td> <td>生徒の母親</td> <td>269名</td> </tr> <tr> <td>1月27日</td> <td>学校保健協議会</td> <td>地域長老、住民、保護者</td> <td>30名</td> </tr> <tr> <td>1月27日</td> <td>ヘルパー研修</td> <td>女性CHW</td> <td>8名</td> </tr> <tr> <td>5月28日</td> <td>急性下痢</td> <td>協議会委員、教員</td> <td>男性25名</td> </tr> <tr> <td>5月28日</td> <td>急性下痢</td> <td>協議会委員、教員</td> <td>女性30名</td> </tr> <tr> <td>6月14日</td> <td>事後説明会</td> <td>母親</td> <td>15名</td> </tr> <tr> <td>6月16日</td> <td>事後説明会</td> <td>父親</td> <td>15名</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 : 感染症対策の啓発及び医療従事者の能力向上</p> <p>2-1) 結核早期啓発パンフレットを改良・作成し、カンダハール県内の公立診療所を受託運営する現地NGO“BARAN”、ハジ・ニカ学校、診療所及びコミュニティ・ヘルスワーカーが活動するヘルス・ポストを通じて地域住民への啓発で活用された。（2,000部）</p> <p>2-2) コミュニティ・ヘルスワーカー（CHW）のスキル向上を目指し、ワークショップを男女別4回ずつ（計8回）開催した。</p>		月日	テーマ	参加者	参加人数	11月10日～17日	事前説明会（4回）	生徒の父親	187名	11月10日～18日	事前説明会（4回）	生徒の母親	269名	1月27日	学校保健協議会	地域長老、住民、保護者	30名	1月27日	ヘルパー研修	女性CHW	8名	5月28日	急性下痢	協議会委員、教員	男性25名	5月28日	急性下痢	協議会委員、教員	女性30名	6月14日	事後説明会	母親	15名	6月16日	事後説明会	父親	15名
月日	テーマ	参加者	参加人数																																		
11月10日～17日	事前説明会（4回）	生徒の父親	187名																																		
11月10日～18日	事前説明会（4回）	生徒の母親	269名																																		
1月27日	学校保健協議会	地域長老、住民、保護者	30名																																		
1月27日	ヘルパー研修	女性CHW	8名																																		
5月28日	急性下痢	協議会委員、教員	男性25名																																		
5月28日	急性下痢	協議会委員、教員	女性30名																																		
6月14日	事後説明会	母親	15名																																		
6月16日	事後説明会	父親	15名																																		

ワークショップ概要			
月日	テーマ	参加者	参加人数
7月1日	予防接種	地域長老・CWH	男性18名、女性10名
2月3日	住民への啓発	CHW	男性10名、女性10名
4月6日	栄養不良の認識と予防	CHW	男性9名、女性9名
5月26日	急性下痢	CHW	男性14名、女性14名

- 2-5) 予防接種カードを事業開始前に自己資金にて発行した。
 2-6) 家庭・家族向け栄養・生活習慣パンフレットを改良・作成し配布した。(2,000部)

パンフレット作成

タイトル	部数	配布先
“TB Signs, Diagnosis, Prevention and Treatment”	2,000部	ヘルス・ポスト(14箇所) ハジ・ニカ学校 NGO “BARAN” カレーズの会診療所
“Malnutrition, Diagnosis, Treatment and Prevention”	2,000部	ヘルス・ポスト(14箇所) ハジ・ニカ学校 NGO “BARAN” カレーズの会診療所

- 2-7) 地域医療スーパーバイザー(CHS)によるヘルス・ポスト巡回、ヘルス・ポストで活動するコミュニティ・ヘルスワーカー(CHW)の指導・支援を行った。

3 : 母子保健の啓発

- 3-1) アフガニスタン版母子健康手帳のカンダハール普及モデル事業を立ち上げ、母子健康手帳の普及を通じた地域医療サービスの向上に努めた。
 3-2) アフガニスタン版の母子健康手帳(MCHハンドブック)は、アフガニスタン公衆衛生省及びBARANが管理しており印刷の許可は得られなかつたが、2,000部を入手し診療所で実践した。
 3-3) 「母子健康手帳普及促進ワークショップ」(1回)、「急性弛緩性麻痺ワークショップ」(1回)を開催し、手帳の目的や役割を理解するとともに、診療所内に実施体制を構築した。

ワークショップ概要

月日	テーマ	参加者	参加人数
9月30日	母子健康手帳実践検討会	KHESスタッフ	10名
6月9日	急性弛緩性麻痺	BARAN、WHO関係者、KHESスタッフ	19名

	3-4) 母親の産前産後ケア及び新生児ケアを実践した。
(3) 達成された成果	<p>成果 1：学校保健管理システムの構築 【期待される成果】学校保健管理システムの基盤が整備される 【成果を測る指標】カンダハール市ハジ・ニカ学校の生徒全員の健康状態（予防接種・栄養状態・生活環境）に関する健康実態調査が実施され、健康実態調査に基づきデータベースが構築される（全生徒1,780名分）。／今後の学校保健活動を管理する学校保健協議会が立ち上がる。 【達成】2021年9月の新学期開始時にハジ・ニカ学校に登録された1,421名の内、長期欠席者や自宅待機中の女子生徒を除く938名（男子709名、女子229名）に対する健康実態調査が行われデータベースが構築された。学校保健協議会が立ち上がり2回のワークショップが開催された。</p> <p>成果 2：感染症対策の啓発及び医療従事者の能力向上 【期待される成果】感染症、特に結核の早期診断や予防の啓発に関するコミュニティ・ヘルスワーカー（CHW）及び医療従事者の能力が向上し、草の根レベルの感染症対策が促進される 【成果を測る指標】ワークショップに参加したコミュニティ・ヘルスワーカー（CHW）が新たに学んだ知識を50%以上理解する（注：訪日研修及びアクションプラン策定は取り止め） 【達成】ワークショップが4回開催され、CHWや地域長老が住民への啓発や流行が季節毎に懸念される感染症対策等について新しい知識を習得した。</p> <p>成果 3：母子保健の啓発 【期待される成果】アフガニスタン版母子健康手帳が地域で普及する 【成果を測る指標】母子健康手帳が1,000部作成・配布され、医療従事者と母親の双方により活用される。／ワークショップの参加者の理解度が50%以上となる（注：訪日研修及びアクションプラン策定は取り止め） 【達成】カンダハール保健局より母子健康手帳2,000部が提供され1,082部が活用された。ワークショップではカレーズの会で活用される「出産介助チェックリスト」も検討され、母子健康手帳と共に助産師の能力向上の為にWHO関係者他とも共有されている。</p>
(4) 持続発展性	<ul style="list-style-type: none"> ・カンダハール市ハジ・ニカ学校に構築された生徒の健康に関するデータベースや学校保健協議会が維持管理される。 ・健康実態調査の実施方法やデータベースのコンテンツが他地域の公立学校に普及・定着する。 ・育成されたコミュニティ・ヘルスワーカー（CHW）が新たに習得した知識やスキルが他地域にも普及する。 ・母子健康手帳の活用が促進され、他地域にも定着する。 ・学校保健システムやコミュニティ・ヘルスワーカーの活動を通じて地域における感染症の感染状況等がフォローアップされ、地域医療サービスが向上する。